

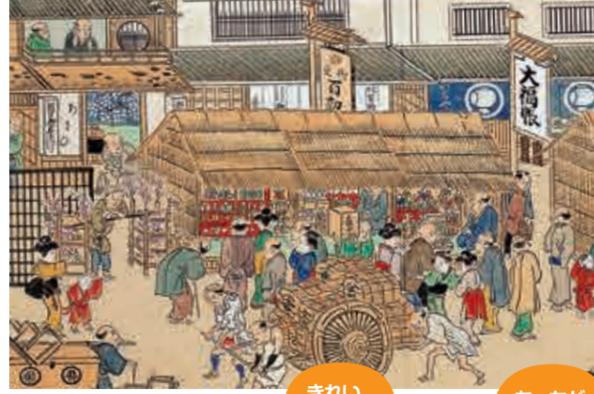
さまざまな仕事

100万人以上の人が住んでいた大都市・江戸では、いろいろな職業が生まれていた。とくに、物を売る人や店で、町はにぎわっていた。

〈物売りと職人〉

大都市には、仕事を求めて地方からやってくる人が多かった。そのため、江戸には比較的だれにでもはじめやすい、物売りが多かった。また、人々の身の回りのものをつくる職人も、数多く住んでいた。

わあー。いろいろな人がいるよ。



十軒店のひな市のにぎわい
3月と5月の節句の短い間、通りに建てた仮の小屋で人形を売るひな市には、多くの人が集まった。十軒店の名は、江戸のはじめにできたころ、家が10軒あったことからついたとされる。

きれいだねえ。

あっちが見たい！



職人たちはなんでも手づくり

徳川家康は、地方の小さな漁村だった江戸に町をつくるため、大工や、武士の生活の道具をつくる職人たちを連れてきた。そのため、江戸には職人が多かった。同じ仕事の職人たちは集まって住んだので、元大工町(→p.151)や豊町(→p.177)など、その土地には職業を表す町名がついた。(→p.144~)



傘張り職人
冷房がなかったため、うす傘は竹でつくった骨に紙を張り、その上に油を塗った。



扇子職人
冷房がなかったため、うちわや扇子は必需品。女性の職人も多かった。



こいのぼり職人
大きなこいのぼりは、約6mもあった。

今でも残っている仕事があるよ。230~233ページを見てね。



肩に棒を担いでいる人が物売りだよ。

魚を買って帰る人

野菜の立ち売り

けんかをしている。

青菜売り

今日も1日がんばろう!

小間物屋

なにを売っているか、わかる?

大通りで働く人々

江戸の物売りは、品物を肩に担いで歩く「棒手振り」と、場所を決めて商売をする「立ち売り」とがあった。大通りには大きな商店も建ち並び、通りではさまざまな品物が売られていた。

今日もたくさん売れますように。



青菜売り
大根やイモだけ売って野菜売りもいた。

リサイクルはだいじ!



紙くず拾い
古紙を買ったり拾ったりして、再生紙にする。

どれどれ、2つください。



もちの立ち売り
もちを売っている。

古着売り
古着屋さん。江戸の町人は古着を売り買いすることが多かった。



金山寺みそ売り
江戸では江戸時代の中ごろから人気が出た。

かごかき
人を乗せたかごを「えっさ、ほいさ」と運ぶ人。

かごに乗るのはちょっとぜいたく。



びいどろふき職人
「びいどろ」とはガラスのこと。熱したガラスをふいて形をつくった。



からくり人形はお茶を運んでくれたりするんだよ。

甲冑職人
よろいやかぶどをつくる。江戸時代は戦がなかったため、つくったものは、かざりものにすることが多かった。



ざる職人
ざるは竹で編んでつくった。



塗師
うるし塗り細工をつくった。



からくり人形職人
からくり人形は、歯車とぜんまいで動く人形。



版木職人
浮世絵などを印刷するための版木をつくった。



足袋職人
足袋が木綿でつくられるようになったのは、江戸時代から。それまでは革製だった。



日常で使うものは、全部手づくりだったんだね。